

巻頭言

本誌は2012年に創刊された「恵寿総合病院医学雑誌」の第10巻にあたります。本巻には総説2編，原著3編，症例報告7編の合計12編が掲載されています。総説の一つは当法人の神野理事長による“with コロナ時代にDXを病院の成長エンジンにせよ”との題名で，DXが今後の生産年齢人口減に対抗する必須の手段であると強く述べています。またもう一つの総説は当院で昨年10月に発生したコロナのクラスター経験についての経過・考察がされており，いずれの総説もこのコロナ禍におけるタイムリーな論文です。他には急性期呼吸器疾患患者の入院時栄養状態と日常生活自立度の関係，リアルタイム経直腸超音波を用いた経尿道的膀胱タンポナーデ除去術，薬剤情報確認ソフトについて，両側子宮動脈塞栓術及び腹式子宮全摘術後の虚血性直腸潰瘍，メトトレキサート関連リンパ腫様肉芽腫症，びまん性大細胞型B細胞リンパ腫（DLBCL），自己免疫性肝炎の1例，迷入クリップによる総胆管結石の1例，Foix-Chavany-Marie症候群の一例，バリント症候群を呈した事例に対する食事動作への急性期作業療法介入についての原著または症例報告が掲載されています。通常業務に加え，新型コロナ対応業務を行いながらの執筆作業には執筆者はもちろん，執筆協力者にも多大な労力があつたと思います。当事者には後々，頑張った苦労は必ず報われるはずです。

本巻頭言執筆は2022年（令和4年）2月3日です。国内でのコロナ感染初発例が見つかってから2年経過しましたが，一日の感染者が国内10万人を突破し，第6波の最中です。1年前はそろそろ医療従事者からワクチン接種を始めようとしていましたが，現在は医療従事者の大部分は3回目ワクチンの接種を終えています。大変な感染者数ですが，もしワクチンが開発されていなかったら，どれだけの感染者数・重症者数になっていたかと考えると背筋が寒くなります。前回も述べましたが，mRNAワクチンは新型コロナウイルス撲滅のために世界中の研究者が血眼になって開発したものですが，何十年も前から研究されてきました。これまでの地道な研究があつて，わずか1年足らずで臨床応用が可能となりました。地道な研究が大事だという事例です。当院でも多くの研究がなされ，論文として共有され，人の役に立つことを期待しています。

最後に第10巻の発刊を祝するとともに，第10巻発刊に際し，大変なご苦勞をされた新井第10巻編集責任者と長浦編集補佐に御礼申し上げます。

2022年3月吉日

社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院

病院長 鎌田 徹